宮原次長会見

メキシコ、上限1万トン順守

現行の管理措置継続へ

日本とIATTCに共同提案

水産庁の宮原正典次長は17日、水産庁記者クラブで会見し、15日にメキシコシティ（メキシコ）で行われた太平洋クロマグロの資源管理に関する日・メキシコ協議の結果を報告した。

太平洋クロマグロ

年1回の協議も合意

宮原正典次長

協議で①メキシコはIATTC（全米熱帯まぐろ類委員会）による2012、13年の合計漁獲上限1万トンを確実に順守すると発言②IATTCで14年以降も現状程度の管理措置を継続するために、6月の年次会合では日本とメキシコで共同提案を作成することで合意した。メキシコとの協議は10年以来3年ぶり。メキシコ側はアギラール水産庁長官らが協議に臨んだ。

宮原次長は、今回の協議の背景を①6月からメキシコのクロマグロ漁期が始まるが、昨年の段階で既に6600トン獲っているため、残り3400トンで止まるのかどうか②6月のIATTC年次会合に向け、来年からの漁獲枠をどうするのかー2点について事前に協議する必要があった。メキシコ側も輸出の増大、国内の魚食推進、養殖について日本の協力を求める狙いがあったと説明。

漁獲上限1万トン順守については「3400トンは低いレベルなので、いかに不漁であっても守るのはかなり厳しいのではないか」と懸念を示す一方、共同提案については「2年間で1万トンというライン」としながらもメキシコの漁獲が3000トンから9000トンと変動が激しいため「3年にするとか、ブロックオータの期間を延ばす」ことを示唆した。

WCPFCについては①日本の沿岸小型漁業が適用除外②韓国の漁業が適用除外となっているーの2点にメキシコが懸念を示していることに対し、「沿岸を含め今後、承認制を含めた管理を強化していくので問題はない」と訴えた。

メキシコからの協力要請では、アワビやロブスターなどクロマグロ以外の輸出対策、ヒラメやスズキなどの養殖の赤潮対策などに対する協力が話題に上った。

宮原次長はマルティネス農業水産地域政策大臣とも会談。メキシコは国土が広く海岸線も長いが、コールドチェーンができていないため沿岸部には魚を食べる人はいるものの内陸部ではほとんど食べていない。同大臣は「魚を食べる習慣をつけさせたい」と繰り返し強調したという。

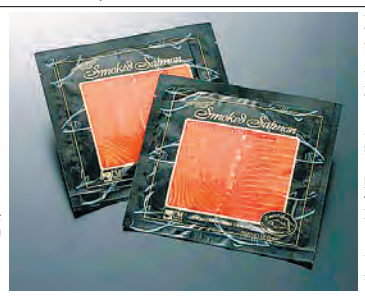
日野浩二氏

皇居で天皇陛下に拝謁

褒章受章者 喜びも新たに

春の褒章受章者は16日、農水省での褒章伝達式終了後、午後から皇居で天皇陛下に拝謁し、受章の喜びを新たにした。

水産関係では黄綬褒章を日野浩二氏（㈱日野商店会長）はじめ、筆差友（漁業）、水嶋敬次（漁業）の各氏が受章した。


スモークサーモン製品

エスエフティ水産

前年並みの1500トン計画

今季輸入スモークサーモン扱い量

エスエフティ水産（齋藤晴社長）の今季の輸入スモークサーモン取扱量は、前年並みの1500トンを計画する。チリ産トラウト原料を中心に業務用のカット品やスライスや切り落としなどを品ぞろえ。製品は現地パッカーのCM動向には「素直に対応し、地に足を付けた販売を心掛ける」と同社。国内では既に6600トン獲っているため、残り3400トンで止まるのかどうか②6月のIATTC年次会合に向け、来年からの漁獲枠をどうするのかー2点について事前に協議する必要があった。メキシコ側も輸出の増大、国内の魚食推進、養殖について日本の協力を求める狙いがあったと説明。

漁獲上限1万トン順守については「3400トンは低いレベルなので、いかに不漁であっても守るのはかなり厳しいのではないかと懸念を示す一方、共同提案については「2年間で1万トンというライン」としながらもメキシコの漁獲が3000トンから9000トンと変動が激しいため「3年にするとか、ブロックオータの期間を延ばす」ことを示唆した。

WCPFCについては①日本の沿岸小型漁業が適用除外②韓国の漁業が適用除外となっているーの2点にメキシコが懸念を示していることに対し、「沿岸を含め今後、承認制を含めた管理を強化していくので問題はない」と訴えた。

メキシコからの協力要請では、アワビやロブスターなどクロマグロ以外の輸出対策、ヒラメやスズキなどの養殖の赤潮対策などに対する協力が話題に上った。

宮原次長はマルティネス農業水産地域政策大臣とも会談。メキシコは国土が広く海岸線も長いが、コールドチェーンができていないため沿岸部には魚を食べる人はいるものの内陸部ではほとんど食べていない。同大臣は「魚を食べる習慣をつけさせたい」と繰り返し強調したという。

新商品の釜揚げシラス

生シラスの軍艦巻

寿司種に釜揚げシラス

クセなく食べやすい

白地水産生産、ノースイが販売

ノースイは昨秋から、水揚げされた高鮮度なシラスを使い、衛生管理が徹底した白地水産の工場で即日製品化する。白地水産は自社グループ船団と最新鋭の加工装置を導入した工場を備え、漁獲から加工まで一貫した鮮度、品質、衛生管理を行っている。その製品は築地市場でも高い評価を得ている。

冷凍生シラスに次ぐ第2弾

ノースイは数年前から白地水産が生産した生シラス（冷凍）をノースイブランドで販売。旬の味覚だった生シラスが一年を通じて食べられるため、業務筋に販路を広げてきた。主な用途は軍艦巻きの寿司種、シラス丼、かき揚げなど。ポン酢をたらして刺身で食べてもよい。

今回の釜揚げシラスは共同開発の第2弾。生シラスになじみが薄い西日本の人でも食べやすいようボイルし、回転寿司チェーンなどに提案中だ。

釜揚げシラスの規格は内容量100㌘のトレパック×4個×12台。冷凍生シラスの規格は①250㌘×4個×12台②200㌘×4個×12台③100㌘×12個×12台。少量ずつ解凍してその都度使い切りたい小口ユーザーのニーズに対応する。

商品の注文、問合先は次の通り。

▼㈱ノースイ東魚事業部＝東京都港区三田3の11の36、㊡03・5476・0906

豊かな海は豊かな森から

「漁民の森 南阿蘇」が誕生

全漁連創立60周年で植樹

【熊本】全漁連（服部郁弘会長）や熊本県漁連（松本忠明会長）、森林組合、県、南阿蘇村などの関係者らが17日、同村で「漁民の森 南阿蘇」植樹と記念式典を行った。

植樹は全漁連の創立60周年記念事業の一環。10月開く「第33回全国豊かな海づくり大会～くまもと～協賛」県で開催した。植樹には関係者ら約110人が参加、約1㌶の原野にヤマザクラやクヌギ、ケヤキなどの苗木約500本を植えた。

式典で全漁連の服部会長は「豊かな海は、豊かな森で生まれた養分が川を通じて海に流れていくことから生まれる」とし、「植樹活動は漁業関係者だけでなく他の組織や団体の協力がなければ実現が困難な事業。尽力していただいたことを望む」と述べた。

県漁連の松本会長は「陸の環境が海に大きく影響を与えることを痛感してきた。県漁連では近隣の子どもたちまで一緒になった植樹活動を行っており、豊かな熊本の漁業につながるよう願っている」と話した。

漁業者や林業関係者、地元行政らが声を掛け合いながら一致協力して植樹した

東海操業の権益確保要請

中国虎網漁船急増で林農水相に

竹内遠旋組合長ら

日本遠洋旋網漁業協同組合（遠旋）の竹内榮組合長、城島正彦副組合長らは17日、林芳正農水大臣に、中国の虎網漁船の急増などによる、東シナ海における西日本大中型巻網漁業の操業権益の確保について要請した。

(1)日中漁業協定協議(2)日台漁業取り決め(3)日韓漁業協定協議(4)燃油暴騰是正対策について要望。

日中漁業協定協議（2013年漁期）については、実態にそぐわない、日本にとり大変不利な措置内容となっているので、東シナ海資源の持続的な利用ができる資源管理措置（操業隻数・漁獲目標量）となるよう交渉するとともに、資源管理措置の見直しが行われない場合、中国虎網などの大量漁獲の影響による減収相当分の補償措置を要望。

日台漁業取り決めについては資源管理が適切に行われる取り決めとするとともに、漁場喪失に伴う損失分について十分な補償措置を求めた。

日韓漁業協定協議については改革型漁船の199㌧型網船の韓国水域内での本許可化が09年以来要望しているものの依然試験操業許可での入漁となっているため、「トン数上限の早期撤廃」の実現に向けた交渉を要請。

燃油暴騰是正対策は、抜本的な燃油価格の低廉化対策を要望した。

要望書を読み上げる城島副組合長（前列左から2人目、3人目が竹内組合長）

三菱東京UFJ銀行公表
電信売相場（TTS,1通貨単位当たり円）
2013年5月17日現在

通貨名	TTS	前日
米ドル	103.29	103.17
ユーロ	133.24	133.06
カナダドル	102.02	102.21
ノルウェークローネ	17.85	17.78
NZドル	85.54	86.46
タイバーツ	3.52	3.52
インドルピー	2.03	2.03
韓国ウォン（100ウォン当たり）	9.40	9.39
豪州ドル	102.51	103.24
ロシアルーブル	3.51	3.50

中国銀行公表

人民元	16.61	16.53

連絡窓口を設置へ

日台湾漁業者 ルール策定の協議継続

沖縄県と台湾の漁業関係者らは17日、日台漁業協定の適用水域での操業トラブル防止に向けた協議を那覇市内で開き、問題発生時の連絡窓口を双方に設置することで一致した。操業ルール策定に向けた漁業者間の協議は継続して行う。

16日からの2日間の協議では、双方が協定適用水域での漁船数など操業の実態を報告。沖縄県側は漁船数の制限を台湾側に求めたが、合意に至らなかった。

沖縄県漁連の國吉眞孝会長は協議後、取材に応じ「協定発効後に大きなトラブルが起きていないのは、沖縄側が操業を自粛しているため。今は台湾側に（適用水域が）実効支配されている状態だ」と述べ、早期の操業ルール策定を求めた。

日台漁業協定は適用水域での漁獲枠や漁船数など具体的なルールが決まらないまま5月10日に発効した。このため、沖縄県の漁業関係者は適用水域での台湾漁船とのトラブルを懸念している。

小売に新サケお目見え

キング、ベニとも3割高

米主要都市では17日から19・99㌦で提供。今週末から来週初めになりそうだ。一部バイヤーによると、日本時間27日か28日に主要市場で初上場されるとの見方がある。空輸便物の御値は昨年、前年比繰り返す。

大手小売チェーンのコストはベニを8・99㌦で販売した。

（1面参照）

卵が主体の日本市場はベニ（同）は1～3割高のボンド39・99㌦、キロ2000円高の400円だった。

カッパーリバーの2回目漁の日程は17日現在、20日午前7時から12時間との見方が強い（19日までに正式発表の見通し）。例年は月曜日、木曜日の週2回のオープンを繰り返す。

会合・行事予定

日本船用機関整備協会 03・3256・0141

【船用機関整備士資格検定事業】21日9～17時 1級船用機関整備士更新講習会（高松市＝高松港湾労働者福祉センター）

【本部事業】21日14～16時 理事会（東京都＝航空会館）

【船用機関整備士資格検定事業】21日9～17時 1級船用機関整備士更新講習会（高松市＝高松港湾労働者福祉センター）

躍れ！21世紀

「卸売市場の取り扱いは年々減っているに、どうして御社の売り上げは伸びたのですか」とある記者。「それはあなた方マスコミが分析することでしょう！」と一蹴された。ある卸会社の決算会見。あまりに的外れな質問に社長は怒った。

少し下調べしてくれば、単価が下がる前にサケを大量販売したから金額が伸びたことは分かる。会見に来るならそれくらい勉強してこいということだろう。その意味も分からず、「営業努力ですか。景気回復ですか」とかみついていたが…

長年イチローを担当した記者が書いた「イチローの流儀」という本がある。筆者はイチローから言われた言葉に戦慄（せんりつ）が走ったと述べている。「それだけ長いことやってきて、そんなこと聞きますかね」。最高のプレーをするため選手はできる限り準備する。質問者にもそれなりの準備と知識を期待する。この教訓、記者の世界に限った話ではない。

こちら漁況情報部

生鮮マイワシ

◆667◆

生鮮マイワシの水揚げが好調だ。漁業情報サービスセンターによると、4月の全国主要漁港累計水揚量は前年同月比3割増の2万3900㌧。5月上旬は水揚げが減少したものの、中旬には銚子などの、中旬には銚子などの水揚量は前年同期比2倍の7598㌧。平均浜値は2割高の49円で推移する。魚体は1尾100～110㌘程度。「産卵シーズンのため、脂のりは良好だ」（同センター）

日本海側も好調な水揚げだ。境港の水揚量は11～17日が7倍の1154㌧と増加。石川や富山、山形の定置網でもマイワシを漁獲する。山形では年間累計犬吠埼沖など鹿島灘。水揚量が過去10年間が5㌧未満と低調だったが、今年は1～4月の累計だけで36㌧と急激な伸びとなっている。

今後は太平洋側では魚群の北上が進むとの見方が強い。「5月末まで同センター。では銚子での水揚げは期待できるが、その後は徐々に減るのでは」（東宗支社・小山斗那実、毎週月曜日掲載）

4月水揚量3割増

銚子を中心に好漁

太平洋側を中心に好漁となっている。

5月中旬の太平洋側での主漁場は日立沖や巻網船が操業し、銚子や波崎などに水揚げする。11～17日の銚子での水揚量は前年同期比2倍の7598㌧。平均浜値は2割高の49円で推移する。魚体は1尾100～110㌘程度。「産卵シーズンのため、脂のりは良好だ」（同センター）

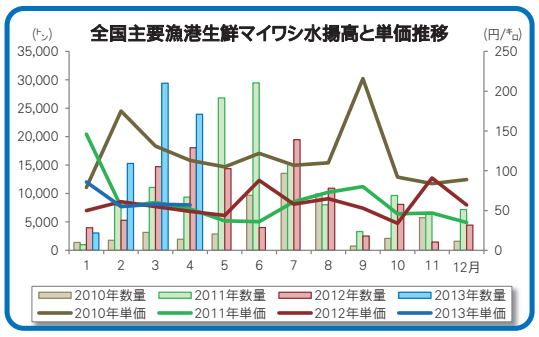
日本海側も好調な水揚げだ。境港の水揚量は11～17日が7倍の1154㌧と増加。石川や富山、山形の定置網でもマイワシを漁獲する。山形では年間累計

全国主要漁港の生鮮マイワシ水揚高と平均単価

（単位=数量：㌧、価格：円/㌔）

	波崎		銚子		境港	
	数量	平均単価	数量	平均単価	数量	平均単価
4月下旬（21～30日）	630	57	7,845	59	1,679	55
5月上旬（1～10日）	0	0	521	60	232	66
5月中旬（11～17日）	2,812	46	7,598	49	1,154	54

資料：（社）漁業情報サービスセンター（水産市況情報などのWebサイト「おさかなひろば」会員募集中。詳しくは http://www.market.jafic.or.jp/ をご覧下さい。）



役員異動

奈良魚市（5月17日）
取締役営業部長補佐（営業部長補佐）吉岡秀起

積水化成品工業（6月25日）
代表取締役副社長執行役員（常務取締役第1事業本部長）柏原正人▽取締役、常務執行役員第1事業本部長（取締役、第1事業本部企画部長）池垣徹哉

（5月27日）
㈱積水化成品北海道、代表取締役社長㈱積水化成品九州、代表取締役社長）藤井雅敏▽㈱積水化成品九州、同（㈱積水化成品北海道、同）山下光太郎▽㈱積水化成品埼玉、同（㈱積水化成品埼玉、生産センター長）田中英夫▽㈱積水化成品佐倉、同（㈱積水化成品佐倉、営業部長）川口正幸

人事異動

積水化成品工業（6月1日）
東北支店長（第1事業本部企画部）安井研作

（6月25日）
第1事業本部企画部長（第2事業本部副企画部長兼第3事業本部副企画部長）紺屋昭一▽第2事業本部副企画部長兼第3事業本部副企画部長（管理本部経理部経理グループ長）首藤敏之

ユニー（5月21日）
食品本部プロセスセンター管理部関東プロセスセンター長（アピタ前橋店食品副店長）大野文利